



希望の鐘 2022

やる気・思いやり・根気・元気

学校教育目標：「人と人とのつながりの中で、学び続ける、心豊かでたくましい子どもの育成」

～校長室からこんにちは～ 大切にしたい！人とのつながり！！

校長室の窓に蝉の声が聞こえ始めました。児童昇降口前に置いてある2年生のミニトマトはたっぷりの日差しを浴びて、赤い実をつけ元気に育っています。今年の梅雨はわずか2週間余りの短いものでしたが、子どもたちが登校するときに、強い雨が降り、差す傘の骨を強風がへし折ったこともありましたが、それもずいぶん昔のこのように感じます。いよいよ本格的な夏がやってきました。

この暑さにも負けず、子どもたちは元気に学習活動に取り組んでいます。感染症のことも気になりますが、これまで見送ってきた多くの活動を、少しずつ取り戻しつつあるところです。

そんな中、ここ2年間実施できなかった5年生の保育園に訪問しての「5・5交流」がスタートしました。希望ヶ丘保育園とのぞみ保育園のご理解とご協力を得て、クラスごとに実施しています。その中に、こんな姿や場面がありました。

5年生に追いかけれられ夢になって逃げる男の子の笑顔。じゃんけんにも負けるたびに小さくなる新聞紙に必死に乗り続けようとする女の子、そしてその子をそっと支える5年生。「だるまさんがころんだ」の言葉の後、面白いポーズをして5歳児の笑顔を量産する5年生。ぶつかって転んで泣き出した女の子にグループのみんなが駆け寄ってきて見せる心配そうな表情と、それまでにぎやかだった園庭が心配のあまり一瞬静まり返った緊張感。5歳児たちが楽しく遊ぶ姿をうらめしそうにお遊戯室の外で見守っている4歳児。こうした子どもたちの姿を見て、人とのつながりが、人の心や気持ちを揺さぶり、相手の気持ちを考える経験をさせ、子どもたちの成長に大切なものを与えてくれると実感しました。まさに「スマイルド」な活動でした。

さて、私たち大人はいかがでしょう。IT技術の発達により、直接出会わなくても思いを伝え合うことができ、それに慣れてしまっている自分があります。また、コロナ禍により、人との距離を縮めることに不安になってしまっています。マスクが外せないのもその一つです。もちろん感染症の拡大についてはまだまだ予断は許しませんが、人との距離が大きくなることで、相手のことを考え、思いやる心の出番が少なくなっているいませんか。

感染症が落ち着きつつある今、経済的な社会生活を取り戻すことは大切です。それと同時に心の社会生活も少しずつ取り戻したいと感じた6月でした。

